

環境用語解説

【あ行】

●アイドリングストップ

信号待ちや荷物の積み下ろし時など、自動車が走っていないときにエンジンをかけっぱなしにすること（アイドリング）は、できるだけやめようという取組です。不必要なアイドリングをやめれば、燃料が節約でき、排出ガスも減らすことができます。

●アスベスト（石綿）

アスベストは蛇紋石や角閃石に含まれている天然の繊維状の鉱物で、断熱性、保温性、防音性等のすぐれた特性を持っているため、建築材料など多様な用途に使用されてきました。しかし、空気中に漂っているアスベストの吸引による中皮腫、肺がんなど健康影響が社会問題化し、被害者の救済を目的に平成18年2月に「石綿による健康被害の救済に関する法律」が制定されました。

●アダプト・プログラム

市民と行政が協働で進める、新しい「まち美化プログラム」です。アダプトとは英語で「養子にする」の意味で、一定区画の公共の場所を養子にみたと、市民が里親となって養子の美化（清掃）を行い、行政がこれを支援します。市民と行政が互いの役割分担を定め、両者のパートナーシップのもとで美化を進めます。

●硫黄酸化物（SO_x）

硫黄の酸化物の総称で、石油や石炭などの硫黄分が含まれる化石燃料が燃焼する際に発生する大気汚染物質です。また、大気中で硫酸に変化し、酸性雨の原因の一つになります。わが国では高度経済成長期に硫黄酸化物による大気汚染が進行しましたが、その後さまざまな規制や対策を設けた結果、硫黄酸化物の濃度は減少しています。

●一酸化炭素（CO）

燃料等の不完全燃焼によって生じ、自動車が主な発生源とされています。COは血液中のヘモグロビンと結合して酸素運搬機能を阻害する等の健康への影響のほか、温室効果のあるメタンの寿命を長くさせます。

●一酸化二窒素（N₂O）

二酸化炭素、メタンに次いで今後の地球温暖化にとって第3番目に重要な気体として注目を集めています。一酸化二窒素は対流圏では消滅源を持たず、成層圏に達した後に光化学反応によって分解されますが、その反応の過程で生成される窒素がオゾン層の破壊につながるようになります。

●一般廃棄物

廃棄物処理法では、産業廃棄物以外の廃棄物を一般廃棄物と定義しています。一般廃棄物は、さらに「ごみ」と「し尿」に分類されます。また、ごみは事務所・商店などの事業活動に伴って排出された「事業系ごみ」と、一般家庭の日常生活に伴って排出された「家庭ごみ」に分類されます。

●雨水浸透施設

雨水を地下に浸透させる施設で、透水性舗装、雨水浸透ます、雨水浸透管、雨水浸透側溝などがあります。

●雨水浸透ます

透水性の雨水ますのことで、底と横に穴が空いており、ますの底と周りを砕石で被って設置したものです。浸透ますを使うと、雨水が地下にしみ込むことにより地盤沈下を防いだり、川に流れ込むまでの時間を長くし河川の氾らんなどを防ぎます。

●雨水貯留施設

水道水の利用を減らすために、雨水を貯めておいて洗車や植物の水やりなど、水道水でなくても問題ない用途に利用するための施設です。雨水タンク、農業用溜池などがあります。

●エコアクション21

中小企業等においても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合した環境配慮のツールである環境活動評価プログラムです。

●エコキュート

自然冷媒ヒートポンプ給湯器といい、ヒートポンプ技術を利用し空気の熱で湯を沸かすことができる電気給湯器のうち、冷媒として、フロンではなく二酸化炭素を使用しています。このため環境負荷が低いことに加え、深夜電力の利用など経済的であることから設置台数は急速に増加しています。

●エコクッキング

環境に配慮して調理全般をすることで、水を汚さないよう工夫したり、余熱で調理してエネルギーの無駄を省くことや、野菜の皮や葉を料理に使うことで生ごみを少なくしたりすることをエコクッキングといいます。

また、旬のものを食べたり、きちんと計画して食品を購入することは、温室栽培などによるエネルギーの無駄を防ぐだけでなく、健康面や経済面でも（旬のものは安い上に栄養価が高く、また計画的な購入は、食べきれずだめにしたりすることが少なくなるため）よいことです。

●エコショップ（制度）

ごみの減量化やリサイクルの推進に積極的に取り組む小売店舗等を市がエコショップとして認定することにより、循環型社会の形成の推進及び市民の環境保全に対する意識の高揚を図ることを目的とした制度です。認定の基準は、簡易包装、ばら売り又は量り売りの推進、マイバックの利用促進とレジ袋の削減、店頭での牛乳パック、トレイ、ペットボトル、ビン、缶などの資源物の回収、エコマーク・グリーンマーク等のついた商品の販売などに積極的に取り組んでいると認められる店舗です。

●エコドライブ

急発進や急加速、空ぶかしを避けるなど燃料消費の少ない運転を心がけることや、燃費のよい自動車の選択や相乗りの習慣など、省エネルギーと排出ガス減少に役立つ運転をいいます。

●エコマーク

「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表したもので、(財)日本環境協会により環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークのことをいいます。

●オゾン層

地球を取りまく大気の成層圏に存在する、オゾンを多く含む部分をオゾン層といい、太陽光線に含まれる有害な紫外線のほとんどを吸収し、地球上の生物を保護する役割を果たします。オゾン層は、成層圏まで上昇したフロンガスが紫外線によって分解されて放出された塩素によって破壊されるといわれます。

●温室効果ガス

太陽から光のほとんどは、大気を素通りして地表面で吸収されます。加熱された地表面は赤外線を放出して熱を宇宙に逃がしますが、大気中には赤外線を吸収する性質を持つ気体があり、地表に入ってくる太陽の光は変わらないのに宇宙へ出て行く熱が減るため、地表の気温が上昇します(温室効果)。赤外線を吸収する性質を持つ気体は二酸化炭素、フロンガスなどがあり、温室効果ガスといわれます。

【か行】

●カーフリーデー

車の乗り入れが多い市街地・住宅地等で、車を規制して車の排出ガス、渋滞、事故、騒音等、自動車が環境に与える影響から開放されることをいいます。

●カーボン・オフセット

人間の生活や経済活動などにより、「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などでによって、「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称です。

●外因性内分泌かく乱物質

→環境ホルモン

●化学的酸素要求量

→COD

●夏季の軽装化(クール・ビズ)

温室効果ガス削減のために、夏のエアコンの温度設定を28℃にし、オフィスで快適に過ごすことができる服装のことで、素材からデザイン、コーディネートまで様々な提案がされています。

●拡大生産者責任(EPR)

拡大生産者責任(EPR=Extended Producer Responsibility)とは、生産者の責任を、製品の製造、使用、流通段階だけでなく、製品が廃棄されて処理・リサイクルされる段階まで拡大する考え方のこと

です。平成12年6月に施行された「循環型社会形成推進基本法」に明記されています。これにより、廃棄されてごみになった商品のリサイクルや処理・処分費用は生産者が負担することになり、製品価格の上乗せも考えられます。また生産者において、廃棄後にリサイクルしやすかったり、処理・処分時に環境負荷が低いといった製品開発が進み、より効率的で低コストな廃棄物処理が実現すると考えられています。

●合併処理浄化槽

→浄化槽

●家電リサイクル法

正式名称は「特定家庭用機器再商品化法」といい、一般家庭や事業所から出された電化製品のうち、テレビ(ブラウン管・液晶・プラズマ式)、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコンの4品目(6機器)に対して、①製造業者の製品引取り及び再商品化義務、②消費者の再商品化にかかる費用負担などがあります。まだ使える部品や材料をリサイクルして、ごみを減らし、資源を有効に利用することを目指した法律です。

●環境基準

大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に関わる環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準のことで、環境基本法により定められています。

●環境教育

平成12年度に策定された国の環境基本計画において、「環境教育・環境学習は、各主体の環境に対する共通の理解を深め、意識を向上させ、問題解決能力を育成し、各主体の取組の基礎と動機を形成することにより、各主体の行動への環境配慮の織り込みを促進するもの」とされています。

●環境人材バンク

市民が環境について楽しく学ぶため、環境に関わる各種講座、体験教室や学校教育などを実施する団体などに対して、市が派遣する講師を環境人材バンクとして登録しています。

●環境税

明確な定義はありませんが、一般的に、地球温暖化対策として温室効果ガスの排出量に応じて課税する、いわゆる炭素税のことを指します。炭素税は環境負荷の低減を目的とし、石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料が課税対象となります。税金は環境対策の財源にあてられることになります。

●環境保全協定

環境の保全を目的として、地方自治体及び企業との間で締結される協定のことです。島田市では、島田市環境基本条例第10条第2項に基づき、事業者と市が互いに協力して良好な生活環境を維持発展させることや、住民の健康を保護増進することを目的として、市内の主要工場と環境保全協定を締結しています。

●環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質）

動物の生体内に取り込まれた場合に、本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質のことです（研究者や機関によって定義が確定していません）。

現在、かく乱物質として疑われているものとして、業務用合成洗剤の分解物であるノニルフェノール、ポリカーボネート樹脂の原料等であるビスフェノールA、スチレンからポリスチレン樹脂を合成するとき重合が不完全で生成するスチレンジマー（2重体）、スチレントリマー（3重体）があります。また、ダイオキシン類もその1つです。

●環境マネジメントシステム

企業などが自ら、企業経営の中でごみ排出を減らすことや、エネルギー消費量を減らすことなど、環境への負荷を低減していくため、継続的に環境負荷の削減が図れるような組織体制にするための管理システムのことです。島田市の「環境管理システム」も同じ考え方のものです。

●環境モニタリング

環境への影響を常に測定・監視することにより、環境に配慮した活動等につなげていくためのものです。

●環境用水

都市において、環境の保全や改善、親水、景観形成などのために利用される水のことです。農業用水、産業用水（発電用水と工業用水）、都市用水（生活用水や業務用水など）、河川維持用水と並び、用水の1形態。農業用水や産業用水などに関わる既存水利権との関係から、その用水確保が課題となっています。

●京都議定書

地球温暖化対策を講じるために、気候変動枠組み条約の発効後、締約国会議（COP）で議論を重ねた結果、平成9年12月に京都で開催された第3回気候変動枠組み条約締約国会議（COP3）で採択された議定書で、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄の6物質が温室効果ガスとして削減の対象になっています。

この議定書で、先進国の温室効果ガス削減目標が定められ、各国が平成20年から平成24年までにその削減目標を実現する責任を負うことを確認しました。我が国の削減目標は、平成2年基準で6%削減することとなっています。

●近自然型工法

工事の対象となる河川などが本来有している生物環境に配慮し、自然景観の保全・創出をめざした工法のことをいいます。「多自然型工法」ともいいます。

●クリーンディーゼル車

ディーゼル車は、本来はガソリン車より燃費が良く二酸化炭素の発生も少ないが、NOxが多く放出されるディーゼル黒煙などの問題もあるため、国や自治体が厳しく規制し悪いイメージがありました。しかし、排

ガス性能を向上させたディーゼルエンジンの開発が進み、欧州を中心に普及。次世代型低公害車として有力視されています。

●グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、価格や品質、利便性、デザインだけでなく環境への影響を重視し、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入することです。

●クール・ビズ

→夏季の軽装化

●光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物や炭化水素等が強い紫外線により光化学反応を起こして生成されるオゾン、アルデヒド、PAN（パーオキシアセチルナイトレート）等の刺激性を有する物質の総称で、主成分はオゾンです。大気中でスモッグを形成するので、この現象を光化学スモッグともいいます。人の目やのどを刺激し、植物にも影響を与えるとされています。環境基本法に基づき環境基準が設定されています。

●高効率Hf型蛍光灯

高周波点灯専用形蛍光ランプのことで、インバータ（安定器）を備えているため、高い周波数で点灯させることにより高い発光効率が得られます。

また、軽量、高い演色性などに加え、インバータの低価格化により蛍光灯の主流になりつつあります。

●降下芒硝

芒硝（ぼうしょう）とは、別名硫酸ナトリウムと呼ばれ、食塩を硫酸と強熱して得る白色粉末結晶のことです。パルプの原料としての用途があり、クラフトパルプ工場がある当市では、芒硝が煙突から降下する濃度の調査を昭和40年から平成14年まで行なっていました。

●高水敷

河川敷のうち、洪水のときだけ水の流れる部分です。常に水が流れている部分は低水路と呼びますが、それより一段高い部分の敷地です。平常時にはグラウンドや公園など様々な形で利用されています。

●古紙配合率（古紙含有率）

コピー用紙などに含まれる古紙（回収した使用済みの紙など）に含まれる割合のことです。グリーン購入法では、紙の環境配慮を表す基準として古紙配合率を主な評価基準にしていますが、一部の製紙メーカーの「古紙偽装問題」により、国はその評価基準を見直し、古紙配合率に加え、適切に管理された森林から作られたバージンパルプの使用や適切な白色度に抑えること、紙単位あたりの重さ（坪量）を加えた計算式によって算出された点数を新たな環境配慮の判断基準としています。

●コージェネレーションシステム

ひとつの燃料源から二つ以上のエネルギーを同時に得る方法です。

従来電力のみを発生させている発電設備の場合、

駆動機（エンジン、タービン）などから出る排出ガスや冷却水はそのまま捨てられていましたが、コージェネレーションシステムでは、発電機で電力を供給し、かつ、駆動機からの排出ガスや冷却水などの排熱を回収し、冷暖房、給湯に有効利用（熱併給発電）します。

●コンポスト

生ごみ、落葉、剪定枝など様々な有機物を原料に微生物の働きで発酵、分解してできる堆肥です。

【さ行】

●最終処分場

最終的に廃棄物を自然界に埋め立てる場所。廃棄物の最終処分場は、埋立処分する廃棄物の環境に及ぼす影響により、しゃ断型、安定型、管理型の3種類に区分されます。

●里親制度

→アダプト・プログラム

●里山

一般には、農家の裏山や人里近くの丘陵、低山帯に広がる、松林などを含む雑木林と採草地を指します。里山は、稲作農耕文化と深く関わりを持ちながら形成され、周囲の水田やため池、水路、河川とともに豊かな生物相を育み、まとまりのある景観をつくりあげてきました。里山、農地、集落、水辺からなる農村景観を「里地」と呼びます。

●サーマルリサイクル

熱回収と訳され、廃棄物を単に焼却処理せず、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用することで。

●産業廃棄物

事業活動に伴って排出された廃棄物のうち、燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチックなど20種類の廃棄物をいいます。大量に排出され、また、処理に特別な技術を要するものが多く、廃棄物処理法の排出者責任に基づきその適正な処理が図られる必要があります。

●自然エネルギー

太陽光、水力、風力などエネルギーを指し、石油など従来のエネルギーに比べ再生可能で、有害物質の排出が相対的に少なく、環境への負荷が少ないエネルギー源です。

●臭気指数

人間の嗅覚測定（官能試験）による臭気の数値化方法の1つです。その臭気を無臭の清浄な空気中で希釈し、臭わなくなったときの希釈倍数を臭気濃度といい、臭気指数は臭気濃度の対数に10を乗じて求めます。臭気そのものを人間の嗅覚で測定するため、悪臭の被害者感覚に一致しやすいというメリットがあります。

悪臭防止法では、平成7年の改正で臭気指数が規制基準に用いられるようになりました。

●集じん施設

気体中に浮遊する粉じんなどを取り除き、きれいな

空気にする施設のことです。工場内で発生した粉じんが周囲に排出されることを防いだり、工場内を清浄化して作業環境を改善するなどの効果があります。

●循環型社会

製品等が廃棄物となることが抑制され、並びに製品等が循環資源となった場合においては、これについて適正に循環的な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については適正な処分が確保され、更に天然資源を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のことを言います。

●浄化槽（単独処理浄化槽、合併処理浄化槽）

水洗し尿を沈殿分離或いは微生物の作用による腐敗又は酸化分解等の方法によって処理し、それを消毒し、放流する施設をいいます。

水洗し尿のみを処理する単独処理浄化槽と、水洗し尿及び生活雑排水と一緒に処理する合併処理浄化槽があります。単独処理浄化槽では、生活雑排水が処理されないため、水質汚濁を進めてしまいます。

平成12年6月の浄化槽法改正及び建築基準法施行令改正等により、現在、新たに設置される浄化槽はすべて合併処理浄化槽となっています。

●硝酸性窒素

窒素は植物に必須な養分であり、主な植物は硝酸性窒素の形態で窒素を吸収しています。しかし、肥料などで過剰に土壌に供給された窒素は、硝酸性窒素として下層に移動し地下水を汚染します。過剰な硝酸性窒素を含む地下水を飲用すると体内で亜硝酸性窒素に変化し、健康被害の原因となります。

●食育

様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。平成17年に成立した食育基本法においては、生きるための基本的な知識であり、知識の教育、道徳教育、体育教育の基礎となるべきものと位置づけられ、単なる料理教育だけでなく、食に対する心構えや栄養学、伝統的な食文化についての総合的な教育のことをいいます。

●親水空間

河川整備計画を策定するとき、河川全域三面コンクリートなどにより、河川が地域住民にとって遠い存在になってしまったことなどへの対策から、市民が気軽に河川へ降りることができるようということで設けられる空間です。遊歩道や階段、飛び石などがよく設置されます。

●生物化学的酸素要求量(BOD)

微生物によって水中の有機物が酸化分解される際に消費される酸素の量をmg/lで表したもので、BOD値が大きければその水中には汚濁物質（有機物）が多く、水質の汚濁が高いことを意味します。

【た行】

●ダイオキシン類

塩素を含む有毒な有機塩素化合物のポリ塩化ジベンゾパラジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルの総称で、発ガン性や生殖異常を引き起こすなどの毒性が報告されています。

ポリ塩化ビニルやポリ塩化ビニリデンなどの塩素原子を含むプラスチックを低い温度で燃焼させた際などに発生するといわれています。

●帯水層

地中の透水層において、地下水によって飽和している地層のことを指します。

●太陽光発電

太陽光のもつエネルギーを改質して電気エネルギーに変換するためのものです。最近では屋根に取り付ける小型のものが普及しています。

●太陽熱利用

太陽の熱を保存して給湯や暖房に利用するものです。

●多自然型工法

→近自然型工法

●炭化水素

炭素原子と水素原子だけでできた化合物の総称です。その分子構造によりアルカン、アルケン、アルキン、シクロアルカン、芳香族炭化水素などに区分されます。炭化水素で最も構造の簡単なものはメタンです。

●地産地消

地元でとれた農産物を地元で消費するという考え方です。

●窒素酸化物 (NO_x)

発電所や工場のボイラー、自動車エンジンなどの高温燃焼の際に、空気中の窒素が酸素と結合して一酸化窒素 (NO) が発生し、これがまた酸化されて安定した二酸化窒素 (NO₂) となり大気中に排出されます。

通常、一酸化窒素と二酸化窒素を合わせて窒素酸化物 (NO_x、ノックス) と呼びます。窒素酸化物は紫外線により光化学反応を起こし、オゾンなどの光化学オキシダントの原因となる物質を生成します。また、窒素酸化物は硫酸化物とともに酸性雨の原因ともなります。

●低公害車

石油代替エネルギーを使い、自動車排出ガス対策を施した車。電気自動車、メタノール自動車、天然ガス自動車とハイブリッド自動車の4車種が一般に低公害車と呼ばれていますが、一定基準を満たした低燃費かつ低排出ガス認定車も低公害車と呼ぶことがあります。

●低炭素社会

化石エネルギーの消費等に伴う温室効果ガス(特に二酸化炭素)の排出を大幅に削減することで、地球温暖化を抑え気候の安定化に貢献することと同時に、生活の豊かさを実感できる社会をいいます。

●デシベル (dB)

電力、音響圧力、音の強さなどの「量の比」を表わす単位です。環境関係では、音圧の平方の対数を用いて音の強さを表現します。人の感覚が刺激量の対数にほぼ対応することから、音や振動の強さをある一定の水準の強さに対比し、その比の対数を音や振動の尺度として用いています。

●デマンド警報装置

施設の契約電力を決定付ける最大需要電力のピークカットを行い、節電による使用電力量の削減を可能とする装置で、二酸化炭素を削減する取組に活用されています。

●等価騒音レベル (Leq)

変動する騒音レベルのある時間内におけるエネルギーを平均し、レベルが一定である騒音に置き換えた場合の騒音レベルのことをいいます。測定対象が間欠騒音や、時間変動が大きい騒音の場合の評価法として広く用いられています。

●透水性舗装

雨水を直接舗装体に浸透させ、舗装体の貯留と路床の浸透能力により、雨水を地中へ浸透させる舗装をいいます。雨水流出効果の他、街路樹の育成、雨天時の歩行性の改善、交通騒音の低減にも役立ちます。

●特定建設作業

建設作業のうち、くい打ち機やバックホウ、ブルドーザーなどを使用する作業のことで、これらの作業は大きな騒音や振動を発生させることから、法律及び条例で規制されています。

【な行】

●生ごみ処理機

生ごみを乾燥させて減量化したり、微生物の作用で分解したりする機械です。

●二酸化硫黄

→硫酸化物 (SO_x)

●二酸化窒素 (NO₂)

→窒素酸化物 (NO_x)

●ノーカーデー

事業所や行政単位で、例えば毎週水曜日などと日を決めて自動車の利用を控える運動です。渋滞緩和、省エネルギー、大気汚染・騒音の抑止といった効果のほか、環境に対する啓発として取り組まれています。

【は行】

●ばい煙

燃料その他の物の燃焼に伴い発生する硫酸化物、ばいじん及び物の燃焼・合成・分解に伴って発生するカドミウムや塩素、窒素酸化物等のことをいいます。

●バイオマス

エネルギー資源として利用できる生物体(植物、動物等)のことです。バイオマスのエネルギー利用としては、燃焼して発電を行うほか、アルコール発酵、メ

タン発酵などによる燃料化や、ユーカリなどの炭化水素を含む植物から石油成分を抽出する方法などがあります。ごみや下水汚泥などの廃棄物に含まれている有機分の利用も研究されており、廃棄物処理と石油代替エネルギーの両方に役立ちます。

●ばいじん

燃料その他の物の燃焼又は熱源としての電気の使用に伴い発生する、すす等の固体粒子の総称です。

●バリアフリー

障害者や高齢者等の社会弱者が社会生活をする上で、生活の支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除くための施策で、車椅子が容易に利用できるようにするため建物の段差を解消する事例があります。

●ピオトープ

ドイツ語のBio（生きもの）とTop（場所）の合成語で、多様な生きものが持続して暮らせる生息空間のことです。

●ピートモス

ミスゴケ類などの鮮苔類、アシ、ヨシ、スゲ、ヌマガヤ、ヤナギなどの植物が堆積し、腐植化した泥炭（でいたん）を脱水、粉碎、選別したもので、農業、園芸用土、若しくは土壌改良剤として用いられます。

●非メタン炭化水素

メタン以外の大気中の水素・炭素化合物の総称のことです。空気中で反応性が高く、光化学オキシダントの原因物質となります。

●浮遊物質（SS）

→SS（浮遊物質）

●浮遊粒子状物質（SPM）

大気中に浮遊する物質のうち、粒径が10ミクロン以下の粒子の総称。首都圏においてディーゼル車からの黒煙が主な排出源となっています。

呼吸器官壁に沈着することにより他の大気汚染物質の有害作用を強めます。アレルギーを引き起こしやすくするほか、発ガン性物質も含まれています。

●フロン

炭素、フッ素、塩素などの化合物の総称で、洗浄剤、冷媒、発泡剤などに使用されています。特にオゾン層を破壊する作用の強いフロンについては、オゾン層保護条約議定書（モントリオール議定書）で特定フロンに指定され生産が全廃されています。

特定フロンの代用品として使用される代替フロンについても、温室効果ガスとして作用することから、他の物質に転換することが望まれています。

●ボカシ

有機質肥料と微生物の力を借りて発酵させた肥料です。

【ま行】

●マイ箸

自分用に持ち歩いて使う箸のことで、日本で使用さ

れる割り箸の原料となる木材の伐採や使い捨てなど、森林資源の保全や廃棄物発生抑制の視点から、最近では多くの個人や企業が取り組んでいます。

●マイバッグ（運動）

自分の買い物袋を持って買い物をし、レジ袋を使わないようにすることで、レジ袋を有料化したり、レジ袋を使わなかったときにスタンプを押して、スタンプがたまったら商品券と引き換えるなど、運動を支援する取組も増えています。

●メタン

有機物の腐敗、発酵により発生する無色・無臭の可燃性のガスで、ごみの埋め立て処分場や下水の汚泥、家畜のふん尿などから発生します。地球温暖化の原因の温室効果ガスのうち、二酸化炭素に次いで多く排出され、温室効果ガス全体の約2割を占めています。最近では、化石燃料の代替エネルギーとして、発電に利用する研究も進められ、バイオマスエネルギーとして注目を浴びています。

【や行】

●ユニバーサルデザイン

障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず多様な人々が気持ちよく使えるようにあらかじめ都市や生活環境を計画する考え方です。

●容器包装リサイクル法

家庭から出る一般廃棄物において、大きな割合を占める容器包装廃棄物の減量化とリサイクルを促進するための法律（正式には、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」）です。リサイクルの義務は、容器や包装を利用したメーカー及び生産・販売した製造メーカーなどの事業者課せられますが、平成12年4月からは、紙製容器包装やペットボトル以外のプラスチック製容器にも対象が広がられました。

●溶存酸素量

→DO

【ら行】

●リターナブル容器

繰り返し使用が可能な容器、すなわち、中身を消費した後の容器を、販売店を通じメーカーが回収し、洗浄して再び使用する容器をいいます。例えばビールびんなどがそうであり、ビールびんは平均20～30回、一升びんは6回程度繰り返し使用されています。リターナブル容器は生（いき）びんと俗称され、容器包装廃棄物の減少、資源の有効利用につながっています。

●レアメタル（希少金属）

地球上に存在量が少ない金属や、採取が難しい金属の総称。コバルトやバナジウムなど全部で31種類あります。わずかな量を加えるだけで製品の機能をあげることができるなど優れた特性があり、自動車、電機、鉄鋼のなど幅広い分野で利用されています。近年

は世界的な需要拡大で価格高騰や供給難となっていて、レアメタルの使用削減や代替物質の開発などに注目が集まっています。また、捨てられた大量の家電製品や携帯電話などからレアメタルの回収も行われており、新たな資源供給源として「都市鉱山」と呼ばれています。

【アルファベット】

●BOD (Biochemical Oxygen Demand)

→生物化学的酸素要求量

●CO

→一酸化炭素

●COD (Chemical Oxygen Demand)

COD(化学的酸素要求量)は、酸化剤を用いて水中の有機物を酸化分解する際に消費される酸素量をmg/ℓで表したもので、水の汚れの度合いを示す方法としてよく用いられます。COD値が高いほど水中の汚濁物質の量が多いことを示しています。

●DO (Dissolved Oxygen、溶存酸素量)

水中に溶けている酸素の量をmg/ℓで表したもので、溶存酸素自体は温度と気圧によって飽和量が決まっています。溶存酸素量が一定以下になると魚類等の生息も制約され、更に減少すると生息しなくなります。また、1mg/ℓ以下になると底質から硫化物やメタンガス等が発生するようになります。

●EPR

→拡大生産者責任

●ISO

様々な分野で国際的な「交換」を容易にするための標準規格を取り決め、これを普及させることを目的として昭和22年にロンドンで設立された国際組織です。ISOでは、平成5年から、環境マネジメントシステムについて国際規格の規定準備を進めてきましたが、平成8年9月に環境マネジメントシステムISO14001として規格を制定しました。これを受けて我が国は同年10月に関連のJIS規格を制定しました。

●NOx

→窒素酸化物

●N₂O

→一酸化二窒素

●pH

正式には水素イオン濃度指数といい、物質の酸性、アルカリ性の度合いを示す数値です。特に断らない場合は水溶液中の値を指し、pH値が7の場合は中性と呼ばれます。pH値が小さくなればなるほど酸性が強く、逆にpH値が大きくなればなるほどアルカリ性が強いことを意味しています。

●ppm (Parts Per Million)

100万分のいくつの意味。大気や水質中の汚染物質の濃度を表示するのによく用いられています。大気汚染では1ppm=1mℓ/m³、水質汚濁では1ppm=1mg/ℓです。

●PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)

有害性のある化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、或いは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計・公表するしくみです。

対象としてリストアップされた化学物質を製造したり使用したりしている事業者は、環境中に排出した量と廃棄物として処理するために事業所の外へ移動させた量とを自ら把握し、行政機関に年に1回届け出ます。行政機関は、そのデータを整理・集計し、また、家庭や農地、自動車などから排出されている対象化学物質の量を推計して、2つのデータを併せて公表します。

諸外国でも導入が進んでおり、日本では平成11年、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律により制度化され、平成14年4月から、第1回目の排出量などの届出が始まりました。

●RDF (Refuse Derived Fuel)

ごみ固形燃料。家庭から分別収集した生ごみ、紙ごみ、プラスチックなどを粉碎し、接着剤、石炭などを加えて練り上げ、ペレット状にした燃料。ごみのリサイクル手法のひとつとして注目されています。

●SS (Suspended Solid、浮遊物質)

水中を浮遊する粒径2mm~1ミクロンの小粒子状物質の総称です。重要な水質汚濁指標の一つで、SSが多くなると水が濁って光の透過が妨げられてしまうことで水域の自浄作用を阻害したり、魚類の呼吸に悪影響を及ぼします。一般的に水域の正常な生活活動を維持するには25mg/ℓ以下が望ましいとされています。

●SPM (Suspended Particulate Matter)

→浮遊粒子状物質

【数字】

●4R

Refuse:ごみになるものを買わない・いらぬものは断る。

Reduce:買う量、使う量を減らしてごみになるものをなるべく減らす。

Reuse :ごみに出す前に再使用の方法を考える。

Recycle :再資源化に協力する。

の4つを意味します。